

ふじのくに留学生就職促進プログラム「SCDP共通プログラム」：
キャリア教育と日本語教育の融合を目指して

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2020-03-16
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 鈴木, 加奈子, 袴田, 麻里, 野口, 直子
	メールアドレス:
URL	所属:
	https://doi.org/10.14945/00027172

ふじのくに留学生就職促進プログラム「SCDP共通プログラム」 —キャリア教育と日本語教育の融合を目指して—

鈴木加奈子／袴田 麻里／野口 直子

【要 旨】

本稿では、2017年度より文部科学省の採択を受け5年間の時限で実施している「ふじのくに留学生就職促進プログラム（SCDP）」の中心となる「SCDP共通プログラム」とその受講モデルをどのようにデザインするに至ったか報告する。

約1年半事業を運営する中で、移動にかかる負担、周知方法、留学生の心的負担などについての課題が見つかった。2019年度は、それらの課題を改善し、プログラム事業を整理・拡充、日本での就職に向けて留学生に特化したキャリア教育として「SCDP共通プログラム」の構築を進めてきた。「SCDP共通プログラム」は、個々の企画を単なる就職活動イベントに終わらせず、キャリア教育、日本語教育の実践の場となるよう、キャリア教員と日本語教員が協働し連携することで、キャリア教育と日本語教育の融合を目指すものである。

【キーワード】 留学生就職促進プログラム 留学生の就職支援 キャリア教育 日本語教育

1 はじめに

文部科学省は成長戦略における「外国人材の我が国企業への就職の拡大」に向け、2017年度より5年間の時限で留学生就職促進プログラムを実施（最終年度2021年度）している。2017年6月に本学を含む12大学が採択され、留学生の我が国での定着を図るため、国内就職率を2021年度末までに50%以上とすることを目標に、地域の自治体や産業界と連携し、就職に必要なスキルである「日本語能力試験1級（JLPT N1）以上の日本語能力」「日本での企業文化等キャリア教育」「中長期インターンシップ」を一体として学ぶ環境を創設することが求められている（文部科学省2017）。

本学では文部科学省の採択を受け、2017年度より「ふじのくに留学生就職促進プログラム（英語名称：Shizuoka Career Development Program for International students（以下、SCDP））」を提供しているが、2017年度、2018年度と事業を実施してきた中で、いくつかの課題が見つかった。そこで、これらを改善するために、これまでの事業を整理・拡充し、2019年度から留学生に特化したキャリア教育「SCDP共通プログラム」を実施している。

本稿では、まずSCDPの目的と概要を述べる。次に、2017年度と2018年度の課題を考察し、2018年度までの課題を改善した「SCDP共通プログラム」受講のためのモデルプランを示す。最後にSCDPの目指すキャリア教育と日本語教育の融合について述べる。

2 「ふじのくに留学生就職促進プログラム（SCDP）」の目的と概要

SCDPは、産学官の連携で推進され、参画大学に所属する留学生への教育プログラム提供、民間団体との連携によるインターンシップ・企業見学受入れ・講師派遣、企業との交流の場の創出、留学生の募集・採用方法の検討を進め、県内大学等に留学している優秀な外国人材の日本国内、特に静岡県内の企業等への就職の促進を目指す。SCDP参画機関は表1の通りである。

表1 「ふじのくに留学生就職促進プログラム（SCDP）」参画機関

大 学	静岡大学、静岡英和学院大学、静岡県立大学、静岡理工科大学、常葉大学、沼津工業高等専門学校
行 政 機 関	静岡県、静岡市、浜松市、静岡労働局
民間団体等	(公社) ふじのくに地域・大学コンソーシアム、(公社) 静岡県国際経済振興会、(公財) 静岡県国際交流協会、(一社) 静岡県経営者協会、(公財) 就職支援財団、(一財) 静岡経済研究所、アジアブリッジ企業連絡会、(株) アルバイトタイムス、(株) はまぞう、静岡県行政書士会、(一社) 静岡県信用金庫協会、(公財) 浜松国際交流協会

日本での就職を希望する留学生には、キャリアプランに対する意識の違い、日本の企業文化への理解不足といった課題があることが指摘されている（原田2010、静岡県留学生等交流推進協議会2010）。これらの課題に対応するために、「就職基礎力の向上」「企業人との交流」「企業の仕事現場に関する理解の促進」を事業の重点項目に据え、本学をはじめとする参画機関等が、既存の事業に加え、それぞれの特色、強みを活かしたセミナー、企業見学、企業交流等の事業を新たに企画し「留学生に特化した体系的なキャリア教育・支援」を実施する。

2017年6月に採択を受けた後、準備期間を経て、同年11月SCDPの説明会を実施し、本格的に事業をスタートさせた。SCDP登録者数は表2の通りである。

表2 「ふじのくに留学生就職促進プログラム（SCDP）」登録者数 （2019年3月31日現在）

大 学 等	学 士				修 士		博 士	合 計
	1年	2年	3年	4年	1年	2年		
静 岡 大 学	14	25	10	3	48	40	12	152
静岡英和学院大学	1	1	2	1				5
静 岡 県 立 大 学	1							1
静 岡 理 工 科 大 学				1		2		3
常 葉 大 学								
沼津工業高等専門学校								
合 計	16	26	12	5	48	42	12	161

3 2017年度、2018年度の課題と改善

3. 1 就職支援の催しに参加しない留学生

静岡県は、2009年から留学生の就職支援を開始し、(公社)静岡県国際経済振興会(以下SIBA)、(公財)静岡県国際交流協会(以下SIR)に業務を委託し「グローバル人材&静岡県企業交流会」「企業見学会」「留学生就職支援講座」を継続して実施してきた。また、浜松市は2015年から留学生を対象とする支援を開始し、(公財)浜松国際交流協会(以下HICE)に委託し「留学生と企業との交流会」を実施してきた。これらに加え2017年度からSCDPがスタートしたことにより、2017年度には20回だった留学生の就職支援の企画やイベント数が、2018年度は46に上った。この他にも大学内でのキャリア科目や就職講座、自治体や民間団体による就職支援のイベントも行われており、県内留学生に対する就職支援はかなり充実しているといえる(袴田・鈴木2019)。

その結果、留学生からは「プログラムの活動に参加し、さらに日本で就職したいという気持ちが高まった」「日本での就職活動についての理解が深まった」等、一定の評価は得られた。しかし、その一方で、事業を実施する側からは「想定したほど留学生が参加しない」「似たような事業で留学生を取り合う形になってしまっている」という課題が挙げられた。

その要因として、袴田・鈴木(2019)では以下の三つを挙げた。

一つ目は、時間的、物理的な要因である。静岡県は東西に広いため、移動に時間と交通費がかかる。また、大学ごとの学事日程の違いやアルバイト等の予定により、留学生に共通する都合のよい日時を見つけるのは大変難しい。

二つ目は情報提供の方法である。事業の実施日程が決まった時点で、実施団体が大学担当部署へチラシ配布を依頼したり、SCDP事務局がSNSやメール等で周知するようにしたが、イベントの開催を知らなかったという留学生も多い。

三つ目は留学生の意識だ。「情報が得られても目的や内容を理解しておらず、自分にどれが適切なイベントなのか判断できない」「大企業・有名企業志向が強く、その他の企業を知ろうとせず、自分と合う企業を調べようとしない」「申し込んでもアルバイトを優先する」など日本での就職や就業に対する意識の低さが窺える。

2017年度、2018年度の事業を実施する中で、参加者数伸び悩みのさらなる要因が浮かんだ(白井・大八木・鈴木・野口2019)。

まず、情報提供の方法であるが、実施日が決まった時点で事務局が案内をするため、留学生からは「行きたいと思っても、既に予定が入ってしまっていて参加できない」「予定が立てられない」という声が聞かれた。また、「セミナーやイベントの数が多く、どれに参加してよいかわからない」「似たようなものが多く、参加する意味がない」といった声もあった。事業を案内するチラシやメール等の数が多すぎて、情報をとることを諦めてしまうケースや、自分が参加すべきイベントがわからず参加を躊躇したり、せっかく参加しても時間を無駄にしたと思い、その後の参加意欲が失せてしまったりするケースがあるようだ。一方で「そのイベントが大事なものだとなれば、よほど都合が悪い場合を除いては、それに合わせて自分の予定を組むことができる」という意見もあった。

次に、進路決定の遅れである。留学生は日本人学生に比べ就職活動のスタートが遅いということが指摘されている(ディスコ2017、2018、2019)。留学生の場合、日本の就職活

動への理解や知識の不足もあるが、日本で就職だけでなく、母国、第三国など選択肢が多いこともその要因であろう。漠然と「日本で就職したい」という気持ちはあるものの強固な意志ではなく、就職関係のセミナーやイベントへの参加に消極的な傾向がある。現に「できたら日本で就職したいが、まだわからない」「日本で就職は難しそうだから、もしできたらいい」という声が聞かれた。

さらに、「一人でイベントに参加するのは緊張する」という留学生も少なくなかった。就業という初めての事象に外国で臨むことが、心的に大きな負担となるのは当然である。

このように、留学生が就職支援の催し参加に消極的な要因が浮かび上がった。

3. 2 ふじのくに就職促進プログラム（SCDP）へ留学生の参加を促す方策

袴田・鈴木（2019）では、SCDPへ留学生の参加を促す方策として、学内での実施、留学生科目との連携、実施機関との連携による事業日程調整を挙げたが、2017年度、2018年度の事業の振り返りから、さらなる方策を提案する。

まず、セミナーやイベントは県内の複数箇所で開催することにした。静岡県は、県中部と県西部に留学生の在籍が多いため、SCDPの企画は可能な限り中部と西部の二か所で実施する。また、他地域での企画参加には、移動を支援する方策を取る。これによって、留学生が県内を移動することが容易になる。

次に、事業日程や内容の調整だけでなく、情報を整理し、早めに伝えることが必要である。しかしながら、情報を得ても参加を躊躇したり、参加意欲が持てないといった消極的な姿勢は変わらない。そこで、一律に扱ってきた個々の企画に参加の目安となるような順序・順位付けを行う。つまりプログラム修了までのカリキュラムを組み、モデルプランを示すのである。これによって、受講の経過や修了を受講者自身が認識できると同時に、受講の指針にもなり、受講のモチベーションになるとも考えられる。このような意識付けは、日本語科目など留学生科目との連携による相乗効果が期待できる。

また、イベント参加への心的負担に対しては、留学生科目等の授業で準備を行うことに加え、教員のサポートが有効だと思われる。初期の段階では教員が引率するなど、同行して適宜サポートし、徐々に自律的な参加を促すという過程が必要であろう。

以上、「留学生の参加が少ない原因と対策案」（袴田、鈴木2019, p.140表2）に新たに判明した要因と対策案を示したものが表3である。

表3 「参加者数が少ない要因と対策案」

（太字は新しく加えたもの）

参加者数が少ない要因		対 策 案
① 時間的、物理的な要因	<ul style="list-style-type: none"> 県内の移動が難しい 留学生の予定が合わせられない 	A 学内で実施 B 同一事業の静岡市・浜松市での開催 C 移動手段の補助
② 周知方法	<ul style="list-style-type: none"> 周知方法が適切ではない／効果的ではない 	D 事業実施機関による日程調整 E 情報の整理、早めの周知 F 事業に参加の目安となるような順序・順位付け

③ 留学生の意識	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にとって必要なイベントが選べない ・進路の迷い ・イベント参加への心的負担 ・アルバイトを優先する／忘れる ・企業を知らない 	G プログラム修了までのカリキュラムと受講モデルプランを提示し、低学年からのキャリアデザイン
		H 教員のサポート I 留学生科目と連携し、事前学習、参加への意識付け

4 「SCDP 共通プログラム」の構築

4. 1 「SCDP 共通プログラム」の目的と概要

表3を踏まえ、SCDPの核として、これまでの多岐にわたる事業を整理・拡充し、年間を通した留学生特化のキャリア教育プログラムを構築することとした。

2017年度、2018年度の事業から、キャリア教育担当者と日本語教育担当者が特に留学生に必要であり、優先順位が高いと考えるセミナーやイベント等の事業を選び順序立てて、留学生に特化したキャリア教育の一連のフローを構成した。これが、キャリア教育プログラム「SCDP 共通プログラム（英語名称：SCDP Program）（以下、共通プログラム）」である（表4）。

表4 ふじのくに留学生就職促進プログラム「SCDP 共通プログラム」

英語、または初級レベルの日本語で実施

No			主催・実施（協力）
1	SCDP 留学生就職ガイダンスⅠ 『ふじのくに留学生就職促進プログラム（SCDP）』説明会～日本での就職の心構え～』		SCDP（静岡大学、静岡英和学院大学）
2	SCDP 留学生就職ガイダンスⅡ 就職活動の基礎知識「就職までの地図（インターンシップ含む）」		SCDP（静岡大学）
3	留学生のための就職支援講座Ⅰ「静岡県の経済・産業」 静岡県の地域の産業の特色、県内企業の特徴について		（公社）ふじのくに地域・大学コンソーシアム、（公財）静岡県国際交流協会（静岡大学）
4	留学生のための就職支援講座Ⅱ「静岡県企業について」 静岡県企業の魅力・地域が求める人材について		（公社）ふじのくに地域・大学コンソーシアム、（公財）静岡県国際交流協会（静岡大学）
5	SCDP 集中セミナーⅠ		SCDP（静岡大学、静岡県行政書士会）
6	【グループA】JLPTN1～N2レベル	【グループB】JLPTN3～5レベル	
7	「自分自身の再確認」	Job-search in JapanⅠ	
8	「在留資格について」	「在留資格について」	
	プレゼン準備・日本語指導	プレゼン準備・日本語指導	

	プレゼンテーション「自分を伝える」	プレゼンテーション「自分を伝える」	
9	留学生のための就職支援講座Ⅲ「OB／OGに聞く・交流会」 外国人社員（元留学生）による就活体験・日本企業で働く上での基本的なルール等の説明、OBOGとの交流（1日メンター）		（公社）ふじのくに地域・大学コンソーシアム、（公財）静岡県国際交流協会（静岡大学）
10	「静岡県の企業を知る」（企業見学バスツアー） 県内東部、中部、西部地域の企業見学		（公社）ふじのくに地域・大学コンソーシアム、（公社）静岡県国際経済振興会（沼津信用金庫）
11	SCDP集中セミナーⅡ		SCDP
12	「日本での就活の基礎・書類①」	Job-search in Japan II	（（公社）ふじのくに地域・大学コンソーシアム、静岡大学）
13	「日本での就活の基礎・書類②」	Job-search in Japan III	
14	留学生のための就職支援講座Ⅳ 「面接マナー・日本語指導・模擬面接準備」	「面接マナー・日本語指導・模擬面接準備」	SCDP （公社）ふじのくに地域・大学コンソーシアム、（公財）静岡県国際交流協会（静岡大学）
	留学生のための就職支援講座Ⅴ 「就職活動の基礎知識・面接体験」	「面接マナー・日本語指導・模擬面接準備」	
15	県内企業との交流会・就職ガイダンス 就職ガイダンス「日本での就職のアウトライン」 グローバル人材と県内企業の交流会		（公社）ふじのくに地域・大学コンソーシアム、（公社）静岡県国際経済振興会（静岡大学）

SCDPが対象とする「国内に本拠を持つ企業等への就職を希望する静岡県内で学ぶ外国人留学生」であれば誰もが共通して学べるプログラムであること、同じふじのくに（静岡県）の大学で学ぶ留学生が日本就職を目指して集まる共通の場となることから、「SCDP共通プログラム」と名付けた。

「共通プログラム」はキャリア教員と日本語教員が協働して運営し、キャリア教育と日本語教育の融合を目指す。また、産学官連携による留学生特化のキャリア教育・就活予備教育と位置付ける。その目的は、以下の3点である。

1. 留学生が日本独特の採用システムについて理解し、自律的に日本での就職活動を行えるようになるための力を育成する。学士生は3年後期、修士生は遅くとも1年後期を目途に、日本人学生と同じ就職活動のトラックに移行できるようにする。
2. 留学生が自分のキャリア形成について考える留学生特化のキャリア教育の場とする。同時に、日本語を習得するための実践の場ともする。そのために日本語授業と連携し、共通プログラムを学習リソースとして有効に活用する。
3. 日本で就職するという共通の目的をもつ仲間となり、留学生同士が情報を交換したり、気づきや学びを共有できるような「場」を創出する。

「共通プログラム」は1から15までのセミナーやイベントで構成される。年1回の「集中セミナーⅠ」「集中セミナーⅡ」、日本でのキャリア形成や就職活動についての知識や情報を得るレクチャー形式のもの、企業見学や企業交流会といった実践的なもので成り立っている。

文部科学省（2019）は、外国人留学生の就職に関する課題のうち、大学も協力できる事項として、「日本の就職活動の仕組みがわからない」「業界研究や企業研究の仕方がわからない」「日本語による書類の書き方がわからない」「日本語での面接対応が難しい」を挙げているが、それらをほぼカバーする内容とした。

「共通プログラム」1～15のセミナー、イベント等は、キャリア教員、日本語教員が必ず参加し、必要に応じた指導、支援がその場でできる体制とした。教員は当日、会場で、そのセミナーやイベントがどのような流れの中のどのような位置付けで行われているのか、参加にあたっての注意点やアドバイス等を伝える。また、次回行われる企画について予告することで、就職支援としての連続性（久保田2019）をもたせる。また、キャリア教員と日本語教員が連携して会場での学生達の様子を観察し、個々に指導・アドバイスをしたり、学生からその場で感じた疑問や悩みについて相談を受けたりすることで、留学生の心的負担を取り除くようにする。

「共通プログラム」は、機会の公平性から、実施機関に働きかけ、全ての企画について留学生が多く在住する静岡市、浜松市の二会場で行う。複数の大学から参加が見込まれる静岡市では駅周辺の会場で、本学の学生が大部分を占める浜松会場では、学内で開催するようにする。会場によっては送迎バスを用意することで、学生の経済的負担を軽くする。

また、各実施機関が調整して日程を確定し、年度初めに年間のスケジュールを周知する。各事業の実施前にはチラシ、メール、SNS等での周知、及び、リマインド通知を行って継続的な参加と、参加者数の増加につなげる。

便宜上1から15までプログラムナンバーを付したが、いつ、どこから受講を開始しても、自分に必要なものだけに参加しても構わない。ただ、プログラムの目的や流れ、仕組みを理解して受講することが重要であることや秋入学の学生もいることから、プログラム説明会は年に2回春と秋に行う。個々の学生の受講履歴はSCDP事務局で一括管理し、年2回の集中セミナーの際に、学生に個別の受講状況を知らせるようにする。同時に、学生自身が自分で受講状況がわかるように、「共通プログラムチェックシート」を配付し、受講したもののについて自分でも記録していくように指導する。

4. 2 ふじのくに留学生就職促進プログラム（SCDP）の受講モデルプラン

「共通プログラム」を中心としたSCDP受講のモデルプランは図1の通りである。

留学生就職促進プログラムの三本柱である「キャリア教育」「日本語教育」「インターンシップ」が有機的に結びつき、「留学生が自律的に日本での就職活動を行えるようになるための力を育成する」という第一の目的を強く意識してデザインした。キャリア教員、日本語教員が伴走しながらサポートする「SCDP共通プログラム」を中心に、合同企業説明会や就職セミナー、日本語授業やJLPT勉強会、インターンシップがつながるようにし、それぞれが個別的ではなく、総合的に行われるようにする。

図1 SCDP「共通プログラム」受講モデルプラン



袴田（2019）は、留学生がキャリア意識を明確にした上で日本人と同じ採用枠でも求職活動ができれば、進路選択の幅を広げることができる」と述べている。SCDPに参画している5大学に行った事前調査から、留学生に特化したキャリア教育はほとんど行われていないが、日本人学生を主対象としたキャリア教育、インターンシップ教育、就職活動を支援するガイダンスやセミナー等は十分整備されていることが分かった。「共通プログラム」の受講の仕方や時期は学生の個々の事情によって異なるが、モデルプランに示した流れで修了を目指せば、学士生であれば3年後期を目途に、日本人学生の就活トラックに移行、または留学生トラックと日本人学生トラックとを並行して就職活動が続けることも可能となり、確実に選択肢が増えることになる。加えて「共通プログラム」の中の企業見学や企業交流会は、就活該当学年の学生にとっては実際に就職に結びつく機会にもなり得る。また、これらは留学生特化のものであり、キャリア教員、日本語教員の支援もあるため、低学年の学生にとっては就活の予行的実践の場ともなる。留学生が徐々に自律的に就職活動を行えるようになる下地としての役割も期待できる。

4. 3 「ふじのくに留学生就職促進プログラム（SCDP）」の修了

留学生就職促進プログラムでは、前述の通り、就職に必要なスキルである「日本語能力試験1級（JLPT N1）以上の日本語能力」「日本での企業文化等キャリア教育」「中長期インターンシップ」を一体として学ぶ環境を創設することが求められている（文部科学省2017）。

そこで、SCDPでは修了要件を以下のようにし、修了者には修了証の発行を予定している。SCDPが留学生のキャリア形成にプラスになるだけでなく、少なくとも国内、県内就職に有益であるということを明確に示し、プログラム修了までのモチベーションの維持を図る。

- ① 日本語能力試験（JLPT）N1の取得
- ② インターンシップ4週間（1社4週間、または1社2週間を2社）
- ③ 「SCDP共通プログラム」1～15の受講

「共通プログラム」は入学時に案内するが、受講開始時期は指定せず、個々の学生が始めたいと思ったときに自由に開始できるようにした。受講期間が限定されていないことで、その時々で変化する留学生の進路意向にも対応できる。一時的に日本での就職を希望しなくなりプログラムの受講を中止していても、その後やはり日本就職をしたいと思えば、プログラムの受講を再開できるというわけである。

受講期間については、それぞれの企画が基本的に1年に1回であることや、学業やアルバイト等で多忙な留学生のスケジュールを考え、1年間に限定せず、学士生であれば3年次までを目標に修了すればよいこととした。文系学士生は、理系学士生よりも職種、業種の選択の幅が広く、なかなか具体的に自身のキャリア形成ができない学生が多く見受けられる。そのため、1年次の夏から集中セミナーに参加しキャリアについて考え始め、2年次中にプログラム受講修了を目標とする。一方、理系学士生は比較的自分の専攻に結びつけ職種、業種を選択できることもあり、2年次から受講を開始することもあり得る。学業とア

アルバイトの両立、また、サークル活動等で多忙な学生は、2年次から受講を開始し3年次にかけて受講することも可能である。

留学生には、学業での悩み、アルバイトの問題、家族の意見等様々な要因により、進路を決めきれずに悩んでいる者が多い。低学年からプログラムに参加することで、少しずつ自身のキャリアについて考える機会となる。そのためにも在学中の長いスパンで受講できるようにしておくことが必要となる。

また、共通プログラムは何度でも繰り返し受講可能とした。ここ最近の企業の採用システムの変化は目まぐるしく、日本人を含めた新卒採用の情報は日々更新されている。1年前の情報がそのまま今使えるというわけではない。企業見学、企業交流会等は参加企業も毎年異なることから、何度でも繰り返して参加できるようにすれば、新しい情報を得ること、新しい企業と出会うことが可能になる。

修了後も、「留学生に特化した最新の情報を得る場」、「留学生同士の情報交換の場」、「留学生特化の企業との接触の場」として積極的に利用するよう、継続的な参加を呼び掛ける。就職活動中の修了者、内定者に対しても、情報提供、個人面談、メール、SNS等で継続して支援を行う。

4. 4 「SCDP推奨」のセミナー・イベント等

昨今、留学生の日本就職についてはその必要性から関心が高まり、様々な機関が工夫を凝らした事業を計画、実施しており、今後ますます増えていくことが予想される。ただ、これらをやみくもに案内することは初期の課題で挙げられた、留学生を混乱させることにつながる恐れがあるため、一つ一つの事業を精査することが必要である。

そこで「共通プログラム」には入れなかったもので、留学生の日本就職に有効だと考えられるものを選定し、「SCDP推奨」のセミナー・イベント（表5）と位置付けた。

この中には、SCDP修了要件の一つである日本語能力試験N1対策の講座や勉強会も含まれており、それらを利用して1、2年次のうちにN1を取得することを目標としている。

加えて、留学生がSCDP修了を目指す上で大きな壁となる4週間のインターンシップ（1社4週間、または1社2週間を2社）参加への促進要素も入れた。4週間のインターンシップについては、アルバイト等の関係から参加が困難な者や、インターンシップそのものに意義を見出せない留学生もいる。現在、日本人を主な対象としているインターンシップには、一日だけの会社説明会に近いものや、採用に直結する接触の機会となっているものも見受けられる。しかし、日本人学生と異なり、実際に就職する前に日本企業への理解を深めることは、留学生にとっては必須である。また、これまで2週間以上のインターンシップに参加した留学生への聞き取りでは、インターンシップでの体験が自分のキャリアをデザインする上で非常に有益だったという声が多い。そこで、SCDPではあくまでも日本での就業体験を目的とし、低学年のうちに2～4週間のインターンシップに参加することを奨励し、地元信用金庫実施の2週間インターンシップ、比較的長期のインターンシップを提供するホテルや旅館のインターンシップマッチング会や説明会への参加を推奨している。2019年度は留学生がインターンシップの成果報告を企業の前で発表する「ふじのくに外国人留学生インターンシップ成果報告会&交流会」の実施も予定されており、留学生のイン

ターンシップ参加の促進だけでなく、企業側の理解や受入れ企業の増加も期待される。3年生には就職活動の一環として、就職希望の企業であるなら、1日～数日のものであってもインターンシップに積極的に参加するよう促している。

表5 2019年度「SCDP推奨」セミナー・イベント

事業名	実施（協力）
「日本語能力試験対策講座（N1対策クラス）」	静岡英和学院大学
「日本語能力試験対策講座（N2対策クラス）」	静岡英和学院大学
「日本語能力試験対策勉強会（N1対策）」 「日本語能力試験対策勉強会（N3－N1対策）」	SCDP 静岡大学
しずおか焼津信用金庫インターンシップ	しずおか焼津信用金庫 （しずおかコンシェルジュ（株）、SUS（株）、SCDP）
「国際交流討論会『話っ、輪っ、和っ』」	静岡県留学生等交流推進協議会
留学生就職支援講座「県内企業訪問（バスツアー）」	（公社）ふじのくに地域・大学コンソーシアム、（公財）静岡県国際交流協会
『「外国人留学生のための日本企業就職セミナー」講話：浜松の産業の特徴と成長分野、新規産業を生み出す支援体制について」 「ビジネスマッチングフェア見学（英語通訳あり）」	浜松市、（公財）浜松国際交流協会
静岡県ホテル旅館インターンシップマッチング会	静岡県ホテル旅館生活衛生同業組合
静岡県ホテル旅館インターンシップ説明会	SCDP（（一社）美しい伊豆創造センター・静岡県ホテル旅館生活衛生同業組合・松壽館）
「ふじのくに外国人留学生インターンシップ成果報告会&交流会」	（公社）ふじのくに地域・大学コンソーシアム留学生就職支援実施委員会（SCDP）

5 キャリア教育と日本語教育の融合を目指して

「共通プログラム」を中心としたSCDPは、留学生就職促進プログラムの三本柱「キャリア教育」「日本語教育」「インターンシップ」が有機的に結びつき、留学生が自律的に日本での就職活動を行える力を育成する総合的な就職支援プログラムを目指している。これをさらに効果的なものにするために、キャリア教員と日本語教員が協働してプログラムを運営するだけでなく、日本語授業との連携もコーディネートし、キャリア教育と日本語教育の融合を進める。

SCDPでは、日本での就職活動・就業には「日本語でのコミュニケーションが不可欠である」「日本語学習を通し『日本社会・文化』を理解しようとする姿勢が求められる」との考えから、日本語学習をプログラムの大きな柱とし、実践的な日本語力アップ、特に「状況に応じ適切にコミュニケーションできる力」「情報を収集・分析しプレゼンテーションやディスカッションをする力」を身につけることを目標とする。「共通プログラム」での企業訪問や交流会などは、教室で学んだ知識を生かす場、日本人の考え方や企業文化を理解す

る気づきの場となり、日本語学習の動機付けにもなる。さらに、このような教室外での体験を通し、コミュニケーション能力、社会人基礎力、異文化調整力などを日本語力とともに総合的に育成する。

キャリア教育と日本語教育の融合の実践として、本学では日本語授業と「共通プログラム」とが連携した取り組みを2018年度から行なっている。事前に日本語授業でプレゼンテーションを準備してから「共通プログラム」の企業交流会の場で発表したことによって、インターンシップ先を見つけたり、企業交流会の主催機関へのインタビューや交流会のチラシ作成を日本語授業で行ったことで、留学生の参加企業への関心が高まったりした。これは授業と連携せずともできることではないかと捉える向きもあろう。しかし、個々に活動を行うことと、留学生の就職に向けての一連の活動をキャリア教員、日本語教員が把握し、双方の視点から指導できることには、大きな違いがあるのではないだろうか。

アクティブラーニングの手法を用いた低学年対象の日本語科目が、留学生の就職への意識付け、日本語の学習意欲の維持・向上に有効だったという報告（袴田2019）もあるが、授業での学びを実践に活かす試みがどのように留学生の進路決定に役立つのか、今後も検証が必要であろう。

久保田（2019）は留学生就職支援初期導入フローとして、イベントに集客、理解、選別、連続性の四要素を満たすことを指摘しているが、SCDPでは2019年度から「SCDP共通プログラム」を事業の中心に据えることで、一連の流れを形成する。必要なものだけ参加できるという単発イベントの利点を生かしつつも、一方で留学生特化のキャリアプログラムとして、さらなる効果が得られるようキャリア教育、日本語教育の融合を進め、教育的観点からの連続性をもたらし工夫が必要だと考える。

「共通プログラム」が単に就職活動のための「イベント」で終わらず、キャリア教育の、また日本語教育の「学びの場」「気づきの場」となるような仕掛けを作っていくことが不可欠であろう。

【参考文献】

- 久保田学（2019）「教育機関に求められる外国人留学生の就職支援の在り方」令和元年度全国キャリア・就職ガイダンス「外国人留学生のキャリア教育・就職活動についてのセッション」発表資料
- 静岡県留学生等交流推進協議会（2010）「留学生の日本企業への就職・日本企業での活躍を促すために一元留学生聞き取り調査を通して―」『話っ、輪っ、和っ！2009 報告書』pp.59-148
- 白井靖人、大八木智一、鈴木加奈子、野口直子（2019）「ふじのくに留学生就職促進プログラム（SCDP）」『静岡大学国際連携推進機構紀要』第1号 pp.147-155
- ディスコ（2017）『2018年度 調査結果（2017年8月発行）外国人留学生の就職活動状況』
- ディスコ（2018）『2019年度 調査結果（2018年8月発行）外国人留学生の就職活動状況』
- ディスコ（2019）『2020年度 調査結果（2019年8月発行）外国人留学生の就職活動状況』
- 袴田麻里（2019）「進路選択につながる日本語力」『静岡大学国際連携推進機構紀要』第1号、pp.57-69

- 袴田麻里、鈴木加奈子（2019）「日本語教育と就職支援の連携」『日本語教育連絡会議論文集』Vol31、pp.138-146
- 原田麻里子（2010）「留学生の就職プロセスに関する一考察—大学におけるキャリア相談・支援現場からみた現状と課題—」『留学生交流・指導研究』Volume12、pp.143-156
- 文部科学省（2017）『平成29年度留学生就職促進プログラム公募要領pp.1-2』
- 文部科学省（2019）『外国人留学生の就職促進について（外国人留学生の就職に関する課題等）』

The SCDP Program of the Shizuoka Career Development Program for International Students: Aiming to fuse career education and Japanese language education

SUZUKI, Kanako HAKAMATA, Mari NOGUCHI, Naoko

This paper reports on The SCDP Program, which forms the core of The Shizuoka Career Development Program for International Students(SCDP) that was adopted by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology in 2017, and is being implemented for five years. In addition, we indicate how we designed the model plan of The SCDP Program.

During one and a half years of operation, several issues were found that required attention, such as students' travel burden, the means of disseminating information, and the psychological strain of international students. In FY2019, we addressed these issues, organized and expanded the program contents, and furthermore developed The SCDP Program as a career education program specialized for international students aimed at employment in Japan.

The SCDP Program aims not merely to prepare individuals for job-searching events, but also strives for a fusion of Career education and Japanese language education in cooperation with and among career teachers and Japanese language teachers in order to be a truly practical system of career education and Japanese language education.